

会 議 概 要

会議名称	平成29年度 第2回伊那市男女共同参画推進会議
日 時	平成30年2月23日（金） 10:00～11:20
場 所	庁議室
会議事項・概要	
<p>1 開 会 副会長</p> <p>2 あいさつ</p> <p>市長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次男女共同参画計画に盛り込まれている、女性の活躍推進は、少子高齢化が進む中、社会の持続・成長のためのカギとなっている。 ・女性活躍社会の実現を図るためには、全ての人の意識改革や、誰もが活躍しやすい環境づくりを並行して進めることが不可欠である。 <p>会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の会議は1年の反省と、来年に向けての方向付けをする会である。 ・実行委員として企画・運営を行った市民のつどいは、良い会になったと思うが、アンケート結果を見るとまだ改善の余地がある。 ・市が行った「イクボス・温かボス宣言」は男女共同参画について理解を深める取組であった。市報3月号でも男女共同参画の特集が掲載されている。広報はしているが、なかなか浸透しない。 ・公民館の分館主事に女性が登用された地区がある。効果が徐々に表に出て、女性が活躍できるようになっていくことを願う。 <p>3 協議事項（会長進行）</p> <p>（1）第3次伊那市男女共同参画計画アクションプラン実績報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.1により第3次計画の目標指標項目の現状を報告。 ・アクションプランの33項目について今年度の実績を報告 <p>（質疑応答）</p> <p>委 員：地区役員の女性登用については、区長会としても女性視点が大切だと感じており、人選の段階で女性登用を投げかけているが、現実にはなり手がいない。女性が区の三役となれるような区づくりを推進したい。</p> <p>委 員：アクションプラン 33 項目の中には、目標を達成できたもの、できないものがあるが、これらの取組を頓挫させず、時代に合うように変えながら続けていくことが重要と考える。</p> <p style="padding-left: 20px;">一朝一夕にはいかないが地道に、努力して続けてほしい</p> <p>委 員：現在男性がやっている地区の役をそのまま女性に割り振るのは難しい。女性が生き生きと楽しくできるよう、サポートが必要である。</p> <p>委 員：保育園の保護者会役員を女性でやっている。保育園からも好評である。川遊びのように男性の力を借りなければならない時は協力してもらい、結果、両親での参加が増えた。</p>	

女性の方が、はっきり物を言うので、意見を届けられた。やってみて良かったと感じている。

委員：「夫婦」や「父親・母親」として、早い段階から男女共同参画の意識を持つことが大事だと思う。両親学級の講師として自分の想いを伝えている。夫婦での参加もあり、参加後は表情が変わっている。これから家族を築いていく人が、夫婦間や父親・母親間の相互理解を深めていけるよう、若い人が、男女共同参画の学習の機会に多く参加できるよう配慮してほしい。

委員：女性相談員のDV研修とあるが、男性のDV被害者の対応はどうしているか。

事務局：男性相談員は設置していない。事例があった際は、福祉部門と協力して対応した。県の男女共同参画センターには男性相談員がいる。

委員：地区や学校PTAの役員は夫の名前で受けても、実際の仕事は妻がやることが多い。縁の下の力持ちとして関わっており、表面化していないので、そうした活躍が数字に表れない。

委員：自分も役をやるときは妻のサポートを受けた。女性の視点が大事である。区長会長会でも推進していきたい。

事務局：貴重なご意見をいただいた。女性の役員登用はハードルが高い。女性保護者会の例など、ロールモデルを示すことは大切である。市も役員の女性登用について促進していく。今後もアクションプランを進行管理していくが、いただいたご意見は、検討・分析する都度活かしていきたい。

委員：キャリアフェスは参加した企業や地域の人、市長が生徒に直接語りかけ、参加した中学生の感動を呼んだようである。来年度は全中学校を対象にやると聞いた。伊那市を知る良い機会となっている。

委員：アクションプラン6「未満児保育受入数」は入園実数より、入園希望に対して、入園できた割合に見直すべき。アクションプラン7「学童クラブ利用者数」も同様。

事務局：いずれも「待機児童」は少ないという報告を受けている。

委員：保護者の立場で言えば、未満児保育を希望しても入園できないという声をよく聞き、待機児童が少ないという感覚はない。未満児保育希望人数が実数として出ているのか。

事務局：未満児保育については、潜在的な希望の実態までは捉えられないが、人口減少が進みファミリーが弱っていく中、施設をキープし、マンパワーを確保し、これだけは受け入れる、という数字を示すことは行政として大事な業務であり、今後も実数で管理していければと思う。

委員：未満児保育受け入れに関連して、正規保育士の確保に力を入れてほしい。保育園は幼児体験の大事な時であり、保育士は親と同じくらいの時間を一緒に過ごす。きちんとした雇用で、安定した大人の保育を受けさせたい。

委員：介護で働けない人もいる。企業側が、在宅ワークなど、雇い方の形態を考えてくれると助かる人がいると思うので、企業へそういった提案もしてほしい。

(2) その他 なし

4 その他

- ・事務局より「男女共同参画社会をめざす伊那市民のつどい」アンケート、会計報告
(質疑応答)

委員：男女共同参画について学校で学んで作品募集につなげるという趣旨はよいと思うが、絵手紙募集はやり方を見直す時期である。

委員：絵手紙は学校での取組が難しい。例えば低学年は自由に絵を描く、高学年は文字で表すということなら取り組みやすい。

男女共同参画について、小中学校の時代から意識を持って成長することは大事なことで、何らかの形で関わりを持っていくことが必要だと思う。

委員：意見を来年の市民のつどいにぜひ活かしていただきたい。

5 閉会 副会長